

出題趣旨・採点基準（刑法）配点 100 点

第 1 問は、業務上過失により被害者に致命傷を負わせた行為者が、そのことに気付いて被害者を即死させ死体を遺棄した最高裁決定に類似する事案（第 2 行為が被害者の死期を若干早めたにすぎない事案ではない）について、因果関係・罪数を含む当該行為者の罪責の構成を問うほか、過失犯・不作為犯・共犯等の観点から同行者の罪責を論じさせるものである。第 2 問は、破綻状態にある夫婦甲・乙間における子の奪い合いの事案を素材に、未成年者略取・誘拐罪、名誉毀損罪、強要罪等に関する基本的理解を各罪の保護法益の把握を含めて論じさせるものである。これによって、基本的な法律科目に関する基礎的学識を習得し、法的な思考・判断力、理解・分析力及び表現力を備えているかを判定した。